

KOBE YMCA NEWS



神戸青年 No.625

2013.9・10 Sep・Oct

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/櫻井 英治
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA
年間聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。
(ローマの信徒への手紙12:15)

第31回午餐会開催



7月6日(土)、第31回午餐会が行われました。今回は、「ミナト神戸の宗教とコミュニティー」をテーマに、福岡女学院大学准教授、週末は神戸基督教改革宗長老会(神戸中華教会)の牧師でもあり、神戸YMCA学院専門学校日本語学科卒業生でもある、徐 亦猛(ジョイモン)さんをお招きしました。特に華僑の視点を中心

に話は進められ、財の神として名高い三国志の武将・関羽を祀った「関帝廟」、そして、境内には線香台があり、見渡せばほかにもれんが造りの小さな焼却炉、赤い文字で一族の名前を入れた提灯、朱色の板など、華僑の文化風習が色濃く伝えられる「諏訪神社」などの話から、神戸における伝統文化と宗教の多様性について話が進められました。明治維新で神戸の港が開港されて以来、欧米、アジアと世界各国の人々がやってきて、神戸は国際都市となりました。特に中央区は、人口の10%が外国人であり、それぞれ固有の宗教とコミュニティーが100年以上も平和的に共存してきた歴史があります。このことは国際的に見てもまれな現象であり、その意味で、宗教多元的、文化多元的状況は重要な意義を持っていると言えるのではないだろうか、と語られました。

私たちの憲法を知る集いin神戸YMCA開催

6月27日(木)「私たちの憲法を知る集い」を開催しました。神戸大学和田進名誉教授を招き、特に憲法9条(平和主義原理)をメインに「改憲論」「押しつけ憲法」「集団的自衛権」など、国際情勢が不安定な時期だからこそ、マスコミを通して最近よく耳にするキーワードを深く知る機会が与えられました。現行憲法が「改正」されることによって、私たちの権利はどう変化するのでしょうか。2013年参議院議員選挙を間近に控えた今回、日本国憲法が私たちに約束する権利とは何か、その権利がどのように変わろうとしているのか、また「国内問題」に留まらず、「国際問題、国際的関心事項」でもある日本国憲法改正について、じっくり学び、議論する機会を設け、改めて、1人1人がそのことに向き合い、考えることが大事であることが語られました。聞き手のロニー・アレキサンダーさん、廣瀬頼子さん、清水浩一さんコーディネートののもと、参加者も質疑応答に混じりながら有意義な時間を過ごすことができ、今後も継続した学びの機会を設けることが確認されました。



第16回チャリティーラン

あなたの助けを必要としている人に手を差し伸べてください。

<YMCAインターナショナル・チャリティーラン

全国大会委員長 有森裕子さんのメッセージ>

私たちは災害や紛争で困難の中にある人たちのニュースを耳にすると、たとえ世界の果てであっても飛んでいって「とにかく力にならなくては」という強い思いにかられます。しかし、なぜかすぐ近くで悩んでいる人の苦しみには気づかず手遅れになってしまうことがままあります。



「誰かのためになりたい」、「ボランティアをやりたい」、「社会のためになることをやってみよう」と思っているなら、TVやインターネットに向かうだけでなく周囲を見渡してみてください。あなたの助けを待っている人はいつもすぐ近くにいます。YMCAインターナショナル・チャリティーランは障がいのある子どもたちを応援するイベントです。障がいのある人もない人も共に走り、支えあうことで障がいのある子どもたちが幸せに生きていくための理解と共感を広げることがミッションとし、全国で開催しています。ぜひあなたも参加してください。私たちがめざすのは障がいのある人もない人もすべての人たちが共に幸せに暮らすことができる社会です。社会を変えていくためには多くの人の力が必要です。どうかあなたの力を貸してください。



- 【とき】 2013年11月4日(月・休)
- 【ところ】 しあわせの村ジョギングコース
- 【プログラム及び参加費】
 - 小学生駅伝 (1チーム 2,000円)
 - グループラン (1チーム 5,000円)
 - 駅伝(一般/女子) (1チーム10,000円)
- 【協賛金(任意)】
 - 企業・団体 1口 20,000円
 - 個人 1口 3,000円以上
- 【お問い合わせ・お申し込み】
 - 神戸YMCAチャリティーラン事務局
 - TEL078-793-7401 または各YMCAまで

未来への提言

1844年産業革命後のロンドンでは人々が都市に流入し、劣悪な環境の中での勤労や生活を余儀なくされていた。そのような時に、青年実業家であったジョージ・ウイリアムズは、生きる意味さえも見失いがちだった若者たちに何かできることはないかと、何人かの若者と共に祈祷会を開いたのがYMCA設立の原点であるとされている。

その約半世紀後の1909年12月24日、当時神戸のスラムと呼ばれていた新川(今の新生田川)に、イエス団創始者である青年賀川豊彦が、21歳の若さで生活を始めた。その頃の神戸には事業で失敗した人、貧乏で行くところのない人、未亡人、身体に障がいがある者、老衰者、犯罪者、病人、失業者等あらゆる生活困窮者が集まったとされているが、彼はその人々と共に生活し、牧師として路傍伝道などを行いつつ、救済活動を実践していったのである。その後も、神戸以外の地においても様々な社会改良運動に身を捧げたが、そのような実績が認められ、ノーベル平和賞の候補としてあげられるなど(多くの優れた著作により文学賞も)、国内外ともに高い評価を得たのであった。

この二人の青年の実践に共通するのは、その頃の劣悪な環境の下で、生きる意味さえも見失い苦しんでいた「いと小さきもの」と共に生き、苦勞を分かち合った中から、希望を生み出していくこととする『魂の救済』の実践であったということである。そして、これらの偉業は決して彼ら一人だけで為されたのではなく、彼らの思いに共感し、共に汗を流し、涙を惜しみなく流した仲間がいたからこそ、様々な「救い」が可能になったということである。

その頃から1世紀が過ぎ、文明は進化し続けてきたが、人々の心はどうだろうか? 最近の様々な悲しいニュースを見るにつけ、心の貧困は深刻さを増しているように思う。イエス・キリストを基とする団体に属する我々は、神の使命によって弱者のために働いた草創期の先達の精神を改めて学び、今の世で『豊かに生きる』『幸福に生きる』とはどういうことであるのか、またその実現のために何をなすべきなのかを、神の同労者として共に考え、実践していくことが強く求められている。

社会福祉法人イエス団 園長 岡山泰典
天隣乳児保育園

ホテル学科50周年に寄せて②



シーサイドホテル舞子ビラ神戸 中村 浩二

神戸YMCA学院ホテル専門学校ホテル学科が50周年を迎えるにあたり、これまで神戸YMCA学院に携わってこられた数多くの職員、卒業生及びパートナーの方々に心より敬意を表します。今や産業の80%をサービス産業が占め、中でもその最高峰であるホテル業が「国民生活に無くてはならない仕事」の一つとして位置付けられるようになりました。



自動車産業、住宅産業、電器産業、各種保険産業等がホテル業の接客手法を取り入れた教育・訓練を実施している時代です。結果を重視するのではなく、結果に至るまでのプロセスを大切に、心・気持ちのこもったコミュニケーションをすることによって、最終的には胸襟を開いた信頼関係を構築することを目的としています。心の時代と言われる中、人と人との温かい心のふれあいの場を大事にしているホテル業がこの先益々発展してゆく事は間違いないでしょう。東日本大震災が起り、連日テレビで流れていた詩に心を奪われ感動しました。それは、宮澤章二氏の詩の一つで「こころ」はだれにも見えないけれど「こころづかい」は見える「思い」は見えないけれど「思いやり」はだれにでも見える。勇気を持って一歩前へ踏み出すことにより相手に「こころづかい」や「思いやり」が伝わり、踏み出した本人も相手の反応により感動を得て存在感が増し、もっといいことをしたい気持ちになるのだと思います。まさしくホスピタリティーの原点がこの詩に現れていると強い印象を持ちました。神戸YMCA学院が長年にわたり運営出来ている要因のひとつが、YMCAの基本方針が一般社会に溶け込んでいて、「こころづかい」や「思いやり」をもった奉仕の精神がぶれることなく継続できているからだと思います。今後、神戸YMCA学院でより多くの人が修学し、社会の第一線で活躍出来る人材を育て送り出す事が出来ます様、ご協力出来れば幸いです。(中村浩二さんは1978年度の卒業生です。)

I'm a Partner Camp

福島に住む子どもたちと、余島で4泊5日のI'm a Partner Campが行われました。震災から二年半、福島では今も日中決められた時間しか外で遊ぶことができない子どもたちがたくさんいます。そんな中で行われた、余島でのキャンプでした。午前中はカヌー、釣り、アーチェリー等、毎日自分の参加したいプログラムを選び、余島の自然の中で思いっきり楽しみました。自分の釣った魚を料理してもらい、食べることができた子どもたちは、「これ、俺が釣った魚!」と、とても嬉しそうでした。午後は楽しみにしていた全体水泳。飛び込み台から勇気を振り絞り、思いっきりジャンプ! マット渡りや相撲大会など迫力のあるプログラムに子ども達は積極的に挑戦していました。2日目の夜は、火を囲んでゲームをしたり踊ったりするボンファイヤーを楽しみました。アメリカ版猛獣狩りをみた子どもたちは、「ファイヤーおもしろかったよ!」と言いながら、部屋に帰って行きました。また、4日目には、コープこうべの福島のこども保養プロジェクトの一環で、50人のコープの組合員さんとともに、夏祭りを開催! 自分たちが飯盒で炊いた米をつかったカレーや、組合員さんが作ってくださった焼きそばなどたくさんのお祭りに囲まれ、とても楽しいお祭りでした。お祭りの後は組合員さんを船着き場まで「こげよマイケル」を熱唱しながら見送りました。海に沈んでいく夕日がとてもきれいで、少しの間キャンプの振り返りを波の音と夕日に囲まれながら行うこともできました。最後の夜、みんなで火を囲んでのカウンセルファイヤー。自分のこのキャンプに対する不安だった気持ち、期待していた気持ち、嬉しかったことなど、自分の言葉でみんなに伝えながらキャンプを振り返りました。



新幹線の中では、帰りたくない、また来年も来たいと涙を流しながらのお別れでした。余島で感じたことを忘れずに強く生きてほしい、そしてまた来年も、子どもたちと一緒にキャンプがしたいと強く願います。リーダー 石田 詩織

このキャンプは、多くの募金者が子どもたちのPartnerとなってくださり、福島の子供たちを余島へ招待するためにご協力くださいました。募金額は7/20時点で4,078,547円となり、40名の子どもたちが余島でのキャンプを楽しむことができました。次回は2014年3月の春休みにPartner Campを実施する予定です。

キャンプディレクター 松田 康之

~お支えありがとうございました~

- 【協賛・協力】サントリーホールディングス(株)・よしましよ・生活協同組合コープこうべ・兵庫県ユニセフ協会・学校法人啓明学院・兵庫県立三田西陵高等学校・NPO法人ルワンダの教育を考える会・ワイズメンズクラブ国際協会西日本区六甲部・(公財)神戸YWCA・(公財)日本YMCA同盟

保育園



社会福祉法人神戸YMCA福祉会 設立25周年記念

「YMCAの仲間集まれ!!」



今年は設立25周年を記念して、YMCA保育園・西神戸YMCA保育園を卒園した小学1~6年生の子どもたちと退職した先生を招き、5月25日(土)に同園会を開き、総勢180名が久しぶりに集まりました。近況報告や保育園クイズ、思い出話

など、学年ごとに集合しておしゃべりを楽しんだ後、現役職員が準備したコーナーで遊びました。園庭では、三輪車やぶら下がり競争、縄跳び対決のコーナーがあり、学年に関係なく、先生も一緒に汗だくになりながら競い合いました。保育室では、おたのしみ劇場で紙芝居や劇、ゲーム屋さんでは、射的やたこやきキャッチゲームがあり、先生と対決コーナーでは、腕相撲やけん玉、豆運びなど、先生との真剣な対決が大いに盛り上がりました。卒園写真を飾ったランチルームのおもいでカフェでは、なつかしい保育園のおやつを食べながら、友だちや先生とおしゃべりを楽しむ子ども、卒園写真のまわりに寄せ書きをする子どもなど、久しぶりの保育園を楽しむ子どもたちの笑顔があふれていました。

見あげるほど伸びた背丈や、しっかりと自分の意見を言える姿に驚いたり、変わらない子どもらしさに安心したりと、幼かった子どもたち一人ひとりが、卒園後も神さまの見守りのなか、元気に過ごしている姿に出会えたうれしい一日でした。

幼稚園



「夏休みの幼稚園」 ~学童さんとの交流~

神戸YMCAちとせ幼稚園では、夏休みになると土日と休館日以外は、預かり保育を行っており、毎日3~5歳の子どもたちが一緒に過ごしています。夏の遊び・昼食・お昼寝など異年齢で過ごす時間は、まるで家族のようです。同時に、併設されている須磨センターでは学童保育の1~6年生も毎日来ています。同じ施設内にいるので時々一緒に遊びますが、この夏休みも特別にクッキングDayを設け、みそ汁やカレーを作りました。子どもたちは、材料を1つずつ持ち寄り、野菜の皮をむいたり、包丁で切ったりしました。小学生と一緒に、園児も素直に順番を待ったり、交代ができたりののは何とも微笑ましい姿でした。お兄さん・お姉さんたちの存在の大きさを感じます。同じ施設内で、2歳から小学6年生までの子どもたちが過ごしている須磨センターとちとせ幼稚園。これからも、こどもたちが交わり、互いに刺激を受け合いながら、成長していくことを願っています。



できることを少しずつ、 それを続けていくことの大切さ

~ワイっこクラブの東日本大震災支援活動~

西神戸ランチ高学年放課後クラブ「ワイっこクラブ」では、毎年開催している夏祭りを、東日本大震災以降、被災者支援を目的として、売上を募金として捧げてきました。三年目を迎える今、原発事故が原因で神戸に避難されているお母さん方(べっこママ)が、神戸(こべっこママ)と力を合わせて、神戸居留地にあるケーキ屋「美侑」さんのサポートを受けながら、「べっこロール」というロールケーキの販売に取り組んでおられることをお聞きし、そのケーキを販売するという、私たちの新しい活動が始まりました。



福島の同年代の子どもたちが書いた文章を読んで、放射能という目に見えない怖さと戦っている人たちに心を寄せ、子どもたちは、震災の悲惨さ、被災にあった人たちの大変さを感じ、自分たちが何かしないといけないという気持ちを持ち始めました。中には「どうするん?」「できんし」と、中には「めんどくさい」と言った子もいました。

リーダーが、「できることでいいんだよ。自分の得意なことでもいいねん。絵が得意な子はポスターを描いてみることや、声大きい子はお客さんを呼び込んでみるよ、ピラを配るだけ、お金を計算するだけ、なんでもいいねん。みんなの得意がひとつになるとすごい力になるんやで。」とお話すると、少しずつ「じゃあ、ポスターだけやる!」「俺ピラ配ってくる!」と子どもたちはそれぞれに得意を生かそうと動き出しました。まだまだできることは少しだけれども、子どもたちの純粋なエネルギーはきっとこれからの光、希望であるということ、彼らの勇氣ある姿から確かに見ることができました。何かできることをたとえ小さくとも続けていくことを大切に、子どもたちと日々を歩んでいきたいと思っています。

(ワイっこクラブ 稲葉由梨子リーダー)

神戸YMCA シアトル・エクスチェンジ・プログラム



1966年から継続されているこのプログラムは、今夏、7月29日より12日間の日程で行われ、中高生15名とリーダー2名の17名でシアトルを満喫してきました。

はじめて出会うメンバー、そして慣れないアメリカの土地、文化、食事、英語など出発前は不安も多かったですが、シアトルに着くとその不安もどこへやら…シアトルYMCAの皆さんの温かい出迎えといつも陽気で明るい性格に触れ、私たちもいつしか心を開き、仲間やシアトルの人ともコミュニケーションがとれるようになっていきました。

毎日がとても楽しく、いつも笑顔の絶えないメンバー！性別や年齢関係なく共に語り、行動ができる仲間と成長していきました。多くのアクティビティや観光などを用意していただきましたが、最後のアンケートでメンバーに最も人気のあったのは、Camp Colmanでの2泊3日のキャンプでした。キャンプでは、アメリカのキャンパーと共に過ごし、生活や言葉などで難しい壁があったにも関わらず、キャンププログラムを通して、言葉だけではない、人と人の触れあいから得られる「温かさ」、「楽しさ」、「ありがたさ」を身をもって感じたからではないかと思えます。キャンプで行われたキャンプファイヤーとダンスパーティーはきっと忘れることのできない思い出となることでしょう。言葉では言い表せないこの体験が、きっと彼らのこれからの成長の糧となることを願っています。シアトルYMCAの皆さん、ホームステイファミリーの皆さん、メンバーを送り出してくださったご家族の皆さん、本当にありがとうございました!!

ソナタ 奏鳴曲 No.59



総主事 水野雄二

「ファミリー・ウェルネス」をめざして

2020年オリンピックの東京誘致が騒がれる秋を迎えています。スポーツの秋、神戸YMCAの幼稚園・保育園でも運動会の秋です。この数年、プロもアマも不祥事が続く中、「健全な精神は健全な肉体に宿るA sound mind in a sound body」という言葉に倣って、「勝った！負けた！」の世界だけではなく、自らの身体を思いっきり動かすことを楽しみ、友だちとの交わりを楽しみ、そして生活全体を楽しむためのスポーツの秋であってほしいと願います。

YMCAでは1891年、ギューリック博士によって赤三角形に示される「Spirit・Mind・Body」の調和が提唱されました。そして、現在ではそれを「ウェルネス」という言葉で表現し、フィットネスを楽しむ、正しい食生活をし、他者との交わりを大切にすることなど、生活そのものを楽しむ生き方が提唱され、YMCA活動の基本となっています。

神戸YMCAは現在、来年オープンする新しいウェルネスセンターの建設を準備しているところですが、その基本コンセプトは「ファミリー・ウェルネス」です。私事で恐縮ですが、この数ヶ月、ひどい肩こりに悩まされています。「灯台下暗し」と言われそうな運動不足や加齢によるものですが、「不健全な肉体には不健全な精神」であるのか、憂鬱な毎日です。正に身体の一部が苦しめば、身体全体が共に苦しむと聖書にもある通りです。

同様に家庭や家族を一つの身体だとすれば、誰が苦しんでも、家族全体が苦しむことになります。一人ひとりがウェルネスな生活を送ると共に、ファミリー全体が健全であるようにYMCAは働きたいと願っています。幼い子どもたちからお年寄りまで、身体を動かすことを楽しみ、地域の友だちとの交わりを楽しみ、そして生活そのものを楽しむためのファミリー・ウェルネスセンターでありたいと望みます。新センターに向けて、大きなご声援をお願いいたします。

財団法人宝くじ協会から テント寄贈

(財)日本宝くじ協会より、YMCA 保育園、西宮YMCA 保育園、西宮つとがわYMCA 保育園、西神戸YMCA 幼稚園へテント5張を寄贈いただきました。

園児の夏期プールや、地域の就園前親子を対象にした園庭開放活動や、各地域の行事等に使用します。

【寄付】
塩田都造
武田寿子
2012～13年度ワイズメンズクラブ
西宮ワイズメンズクラブ
宝塚ワイズメンズクラブ
西宮ワイズメンズクラブ
プ西日本区六甲部
2012～13年度ワイズメンズクラブ

感謝をもってご報告いたします。
(順不同、敬称略)

感謝・寄付



神戸YMCAでは様々なプログラムを通じて人の出会いと交わりを大切にしています。文化や民族や言語を超えたつながりが平和の歩みへと続くことを願っております。

交流会では、兵庫県立御影高校の皆さんにご協力いただき、校内見学や茶道体験を行いました。その後、御影のユースプラザKOB E・EASTでお国自慢やゲームなどを紹介しました。そして、今夏も約20のご家庭に協力いただき、学生17名を、日本の家族の一員として迎えていただきました。ホストファミリーと過ごす日本の夏はそれぞれに忘れられない経験を刻みました。ホストファミリーの皆さんのご協力なしではできないプログラムです。心より感謝申し上げます。



ウエルネスセンター三宮	☎078 (241) 7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078 (241) 7237
ランゲージセンター	☎078 (241) 7204
専門学校	☎078 (241) 7203
西宮YMCA	☎0798 (35) 5987
三田YMCA	☎079 (559) 0075
余島野外活動センター	☎0879 (62) 2241
国際・奉仕センター	☎078 (241) 7204
ウエルネスセンター学園都市	☎078 (793) 7401



Information

西神戸YMCA	☎078 (793) 7402
西神南YMCA	☎078 (993) 1560
須磨YMCA	☎078 (734) 0183
YMCA保育園	☎078 (794) 3901
西宮YMCA保育園	☎0798 (35) 5992
西神戸YMCA保育園	☎078 (792) 1011
YMCAちとせ幼稚園	☎078 (732) 3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078 (997) 7705
西宮つとがわYMCA保育園	☎0798 (26) 1016

YMCAセミナー

「沢 知恵チャペルコンサート」

～本当の優しさと希望を～

日本は今、先の見えない不安に満ちています。今も続く東日本大震災時の福島第一原子力発電所の爆発事故による放射能汚染。子どもたちを取り巻くいじめや虐待など。

こんなことを考える時、希望や明るさはなかなか見えづらいです。でも、聖書にはこう書いてあります。「信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である」。沢知恵さんは音楽を通して信仰と希望と愛を伝えておられます。沢さんから歌やメッセージを頂き、一緒に歌って、元気をいただき、生きていることの喜びや希望を感じ、本当の優しさについて考えていただければと願い今回のYMCAセミナーを企画しました。このコンサートには、YMCA

関係者、近隣の教会の方々のご参加はもちろんですが、児童養護施設など社会福祉施設にいらっしゃる方々をお招きしたいと願っています。入場料は無料です。しかし実施経費として30万円が必要になります。どうぞ、志のあるご寄附をお願いいたします。神様の恵みに満たされたコンサートになりますよう委員一同祈りつつ企画を進めて参ります。



神戸キリスト教青年会ミッション委員会 森 愛子

2013年度YMCAセミナーのご案内

日時：2013年11月9日(土) 14時～15時30分
場所：日本基督教団神戸栄光教会
定員：300名
入場：無料
受付開始日：2013年9月9日(月) 10:00～

ご寄附振込先：三井住友銀行 三宮支店(普)
口座名義 神戸YMCA
口座番号 7929349

※ご寄附は随時受け付けております。振込名義人の後にセミナーとお加え下さい。
申し込み・お問い合わせは、神戸YMCA西神戸ランチまで。
TEL：078-793-7402 E-Mail：seminar@kobeymca.org

JCCCNC

7/27～7/31の日程でアメリカから10名のメンバーが来日し、ホームステイ、保育園、児童養護施設の訪問等を通して交流活動を行いました。JCCCNCは阪神大震災を契機に交流を続けている北カリフォルニア日本文化コミュニティセンターの事です。



富士登山キャンプ

今年も4年生～中学1年生12名のキャンパーが富士登山に挑戦。4日間の冒険は、富士山の雄大さを感じ、かけがえのない仲間を与えられ、新たな自分に出会う、そんな旅でした。富士山は、子どもたちを勇敢な冒険者に育ててくれました。



余島の海は世界中につながっている

7月25日、カヌートリップキャンプのキャンパーたち、全員余島に到着しました。手のマメがつぶれ痛みを我慢して漕ぎ続けた子、腕が重くて辛くても歯を食いしばって動かし続けた子、大きな声をだして周りをはげましつづけた子、仲間すべての力が合わさり、無事に終えることができました。辛かったことも嬉しかったことも、全てが彼らの宝物になることなのでしょう。



四万十川 カヌーツーリングキャンプ

8月8日から8月11日まで、この夏に国内最高気温を更新した四万十市でカヌーツーリングキャンプを行いました。暑かった！貴重な経験ができました。



★★ 個人消息 ★★

【ご結婚】おめでとうございます。

7月27日 藤田良祐さん(ユースプラザKOBE EAST) 辻千佳さん(ちとせ幼稚園)と
8月4日 坂東篤さん(三田センター職員) 益永祐子さん(元三田センターリーダー)と

【お誕生】おめでとうございます。

7月22日 多田羅待子さん(YMCA保育園) 長男 結生(ゆうき)くん

【採用】

7月より 家谷杏子さん(西宮YMCA保育園保育士)

【退職】今までの働きに感謝します。

7月31日付 西野みどりさん(西神戸ランチ)
8月31日付 東 寛和さん(ウエルネスセンター学園都市)

【ご逝去】謹んでお悔やみ申し上げます。

7月2日 三島浩司さん(西宮つとがわYMCA保育園園長) ご岳父様
7月8日 清水泰人さん(公益財団法人副理事長) ご尊父様
7月26日 木村保典さん(余島センター嘱託職員) ご母堂様

